

P C T

## 国際調査報告

(法 8 条、法施行規則第40、41条)  
〔PCT 18 条、PCT 規則43、44〕

出願人又は代理人 の書類記号 P028P01/PCT	今後の手続きについては、国際調査報告の送付通知様式(PCT/ISA/220) 及び下記5を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO3/11417	国際出願日 (日.月.年) 08.09.03	優先日 (日.月.年) 09.09.02
出願人(氏名又は名称) 科学技術振興事業団		

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条(PCT 18 条)の規定に従い出願人に送付する。  
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 3 ページである。

☐ この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

## 1. 国際調査報告の基礎

a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。

☐ この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。

b. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際調査を行った。

☐ この国際出願に含まれる書面による配列表

☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表

☐ 出願後に、この国際調査機関に提出された書面による配列表

☐ 出願後に、この国際調査機関に提出された磁気ディスクによる配列表

☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

2. ☐ 請求の範囲の一部の調査ができない(第I欄参照)。

3. ☐ 発明の単一性が欠如している(第II欄参照)。

4. 発明の名称は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 第III欄に示されているように、法施行規則第47条(PCT 規則38.2(b))の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から1カ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。

6. 要約書とともに公表される図は、  
第 \_\_\_\_\_ 図とする。 ☐ 出願人が示したとおりである。

☒ なし

☐ 出願人は図を示さなかった。

☐ 本図は発明の特徴を一層よく表している。

## A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>1</sup> C07K 5/027, 9/00, 1/06, C07H 15/04, C07D 339/04, G01N 33/543

## B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>1</sup> C07K 5/027, 9/00, C07H 15/04, C07D 339/04, G01N 33/543

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

WPI/BIOSIS (DIALOG), CA/REGISTRY (STN), JSTPlus (JOIS)

## C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
P, X	荒野 明男 他, ヘパリン部分構造を有するクラスター化オリゴ糖類リガンドの合成 とチップテクノロジーへの応用, 日本化学会第82秋季年会 (2002) 化学関係学協議会研究発表 会連合討論会合同大会, 10. 9月. 2002, p. 137 (1C1-11参照)	1-17
A	JP 2002-80488 A (大阪大学長) 2002. 03. 19 (ファミリーなし)	1-17

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

## \* 引用文献のカテゴリー

- 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの  
「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの  
「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)  
「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献  
「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献  
「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの  
「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの  
「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの  
「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

16. 10. 03

国際調査報告の発送日

28.10.03

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

三原 健治

4N

2937

電話番号 03-3581-1101 内線 3488

## C (続き) 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	隅田 泰生, 硫酸化天然多糖の機能ドメイン構造の再構築とセンサーチップへの 応用, 日本化学会第81春季年会2002年講演予稿集II, 3月. 2002, p. 949 (1F6-33参照)	1-17
A	林 秀樹 他, 硫酸化オリゴ糖の集合化、ビオチン化およびその表面プラズモン共 鳴への応用, 日本化学会第79春季年会(2001)講演予稿集II, 3月. 2001, p. 1042 (4G304参照)	1-17
A	荒野 明男 他, ジスルフィド結合を有するリンカーを結合させたヘパリン部分構造 の合成とチップテクノロジーへの応用, 日本化学会第79春季年会(2001)講演予稿集II, 3月. 2001, p. 1042 (4G305参照)	1-17
A	KOSHIDA S. et al. An efficient method for the assembly of sulfated oligosaccharides using reductive amination. Tetrahedron Lett. 2001, Vol. 42, p. 1293-1296	1-17
A	KOSHIDA S. et al. Synthesis of oligomeric assemblies of a platelet-binding key disaccharide in heparin and their biological activities. Tetrahedron Lett. 2001, Vol. 42, p. 1289-1292	1-17
A	WO 01/86301 A1 (片岡 一則) 2001.11.15 & EP 1279959 A1	1-17
A	隅田 泰生 他, 硫酸化オリゴ糖を固定化したシュガーチップの開発と表面プラズモン 共鳴法への応用, 生化学 Aug. 25, 2002, Vol. 74, No. 8, p. 849 (3P-047参照)	1-17
A	林 秀樹 他, 硫酸化オリゴ糖の集合化、ビオチン化とそのセンサーチップへの応 用, 第23回日本糖質学会年会要旨集, 7月. 2002, p. 75 (PI-05参照)	1-17